

今週（10月28日から11月1日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は週初に財政「等」要因から若干増加し、週初から月末まで410兆円程度での推移となった。11月1日は2Y発行等の要因で407兆円台まで減少した。無担保コールO/N物は、引き続き調達ニーズは強かったものの、一部では調達水準を引き下げる動きが見られた事から、先週に比べて無担保コールO/N加重平均レートは低下した。週初は▲0.016%から始まり、31日には月末要因から▲0.03%まで低下した。週末の11月1日は4日積みとなるため、積極的な調達姿勢が見られ、取り上がる動きも散見されたことから、加重平均レートは上昇した。ターム物も先週より小幅にレートが低下し、地銀業態を中心に、ショートタームで▲0.03～▲0.015%の出合いが散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、11月1日に6日物（5日～11日）・15,000億円がオファーされ、応札額1,723億円（期落ち額3,598億円）の札割れとなった。

10月30日～10月31日に開催された金融政策決定会合では、新たな政策金利のフォワードガイダンスが決定され、「政策金利については、「物価安定の目標」に向けたモメンタムが損なわれる惧れに注意が必要な間、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している」と、従来の「当分の間、少なくとも2020年春頃まで、現在のきわめて低い長短金利の水準を維持する」から変更された。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.065～▲0.050%程度の水準で推移した。月末取引となる30日のT/N（31日-11月1日）は、朝方はオファーの入りが増重であったものの、後場に掛けてレートは切り上がっていった。

SC個別銘柄では、5Y136～141、10Y336～356、20Y166～170、30Y59～64、40Y9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散なマーケットとなった。週半ばの金融政策決定会合は特段のレート変動要因とはならなかったが、週末の11月1日は、海外要因から債券相場全体が強含みで推移し、短国も1Y物が▲0.240%近辺で出合うなど堅調な地合いとなっていた。

29日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.047%、按分落札利回較差+0.035%と、在庫調整の売りから弱い結果となった。

11月1日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.180～▲0.160%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1700%、按分落札利回▲0.1579%と、前回債からレートが上昇する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.170%出合いと堅調に推移している。

●CP市場

今週のCP市場は29日の月末発行を中心に、食料品、機械、鉄鋼等の複数業態で大型発行が散見され、週間発行総額は1兆4,000億円程度と償還額1兆1,400億円程度を上回った。市場残高は週を通して19兆8,000億円台と横ばいで推移した。前月中旬は20～21兆円台で推移していたことを踏まえると、発行残高は伸び悩んでいるようにみえるが、前年同月比では市場残高全体で9%弱（1兆6,000億円弱）増加しており、市場規模は着実に拡大している。特にノンバンクを筆頭とした一般事業法人が、市場残高の伸びをけん引する傾向が続いている。発行レートについては、発行残高が積み上がっている銘柄で僅かに上昇したが、0%付近でのキャッシュ潰しニーズは底堅く、引続き0%前後の狭いレンジで推移している。

28日にはCP等買入オペが2,500億円オファーされた。結果は平均落札レート0%、按分落札レート▲0.001%と、前回（平均0.004%、按分▲0.001%）比で平均レートは低下、按分レートは横ばいとなった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
10/28（月）	22,867.27	△ 0.135	108.76	△ 0.016	△ 0.057	4,102,400
10/29（火）	22,974.13	△ 0.113	108.97	△ 0.021	△ 0.059	4,109,100
10/30（水）	22,843.12	△ 0.125	108.84	△ 0.024	△ 0.068	4,108,300
10/31（木）	22,927.04	△ 0.145	108.83	△ 0.030	△ 0.060	4,106,100
11/1（金）	22,850.77	△ 0.185	107.98	△ 0.024	△ 0.059	4,076,500

来週（11月5日から11月8日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/4 (月)	振替休日				9月の米製造業新規受注・出荷・在庫
11/5 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 10月のマネタリーベース(日銀 8:50)				9月の米貿易収支 10月のISM 非製造業景況指数
11/6 (水)	金融政策決定会合議事要旨(9月18,19日分 8:50) 11月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 11/7発行	交付税借入 10,500億円 11/15借入		
11/7 (木)		TB6M 23,000億円 11/11発行			英中銀MPC結果発表 9月の米消費者信用残高
11/8 (金)	9月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 9月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 10月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 9月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 42,700億円 11/11発行	10Y物価連動 4,000億円 11/11発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 11/20借入	9月の米卸売売上高 11月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
11/4 (月)	振替休日								
11/5 (火)	500	▲ 5,900	▲ 5,400	国債買入 全店共通 CP買入	▲ 3,600 ▲ 100	4,100 1,700	2,100	▲ 3,300	税・保険料揚げ 普通交付税 TB3M発行△43000償還42400 交付税借入△10500期日10500
11/6 (水)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
11/7 (木)	0	▲ 21,000	▲ 21,000				0	▲ 21,000	10Y発行△21000
11/8 (金)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	交付税借入△10500期日10500
週間合計	1,500	▲ 25,900	▲ 24,400	—	▲ 3,700	5,800	2,100	▲ 22,300	

11/5は日銀予想、11/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、5日に交付税の払いが見込まれることから、無担保コールO/N加重平均レートは若干低下する可能性もあり、▲0.04～▲0.02%程度での推移を予想する。レポ市場は、積み期間後半に入ったものの、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移すると思われる。短国市場は、7日に6M物、8日に3M物の入札が実施予定となっている。レート水準など、市場動向が注目される。短国買入オペは6日に実施されることが見込まれる。11月中の日銀保有償還額（12,660億円）が多いことやレート水準が上昇してきたこともあって、2,500億円に増額される可能性も考えられるため、注目したい。CP市場は、月初週にあたり落ち着いたマーケットになることが予想される。金融政策決定会合で追加緩和が見送られ、特に材料も見当たらないことから、引き続きレートは横ばい圏で推移することが予想される。

主要なイベントとしては、海外では7日にMPC結果発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入